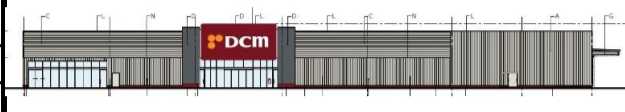


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DCMカーマ 春日井高森台店	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県春日井市高森台10丁目1番1	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年4月21日
敷地面積	13,399 m ²	作成者	此嶋 尚志
建築面積	4,687 m ²	確認日	2022年4月21日
延床面積	4,687 m ²	確認者	此嶋 尚志



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.3 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>72%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	72%	③上記+②以外の	72%	④上記+	72%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	72%									
③上記+②以外の	72%									
④上記+	72%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.1</p>	<p>Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3のスコア = 2.2</p>

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.6**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2のスコア = 3.3</p>	<p>LR3のスコア = 3.6</p>

3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮 4.1</p>	<p>③敷地内の緑化 1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 9.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用 3.2</p>	<p>④地域材の活用 1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境										3.1
1 音環境				0.1	1.8	0.15	-	-	-	1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-
1.2 遮音				0.4	1.0	0.40	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	1.0	1.00	-	-	3.0	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	3.0	-
1.3 吸音				-	1.0	0.20	-	-	3.0	-
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	-
1 室温				3.0	3.0	0.50	-	-	3.0	-
2 外皮性能				3.0	3.0	0.17	-	-	3.0	-
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	-
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30	-	-	3.0	-
3 光・視環境				0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0
3.1 昼光利用				0.5	5.0	0.50	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	3.0	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	5.0	1.00	-	-	3.0	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	3.0	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	3.0	-
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50	-	-	3.0	-
4 空気質環境				0.2	3.4	0.25	-	-	-	3.4
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00	-	-	3.0	-
4.2 換気				0.3	2.0	0.30	-	-	-	-
1 換気量				3.0	3.0	0.50	-	-	3.0	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.50	-	-	3.0	-
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50	-	-	-	-
Q2 サービス性能						0.30	-	-	-	3.2
1 機能性				0.4	3.2	0.40	-	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	3.0	-
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	5.0	0.33	-	-	3.0	-
2 リフレッシュスペース				3.0	4.0	0.33	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	1.0	0.33	-	-	-	-
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	4.0	0.50	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.8	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	2.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.6	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.1	0.33	-	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)DCMカーマ 春日井高森台店

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:9.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)DCMカーマ 春日井高森台店

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 商業施設である用途であるため、経済性に配慮しつつ、物販店舗として空間・売場環境・省エネルギーに配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 施設内の快適性を確保するために、空気室環境(F☆☆☆☆建材の全面的な採用)の向上に努めている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 売場の天井高を3.6m以上(4.5m)とし心理性・快適性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高温排熱の放出部を設置しない。屋根掛売場を設けて日影の形成を図っている。 敷地内通路に防犯灯の設置等により防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明を採用し設備の高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省資源への貢献として、建材再利用性(乾式工法による解体時の資源分別容易性)に配慮している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 乗入口を歩行者、お客様用、配送用に分け渋滞緩和に寄与し、地域インフラへの負担抑制(駐車場の確保)に配慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 ・近年問題となっている盛土による土砂災害を回避するため、敷地内に段差をつけ、低い敷地内に高い敷地レベルに合わせた床高の建物を建設し、盛土量を減らした。